

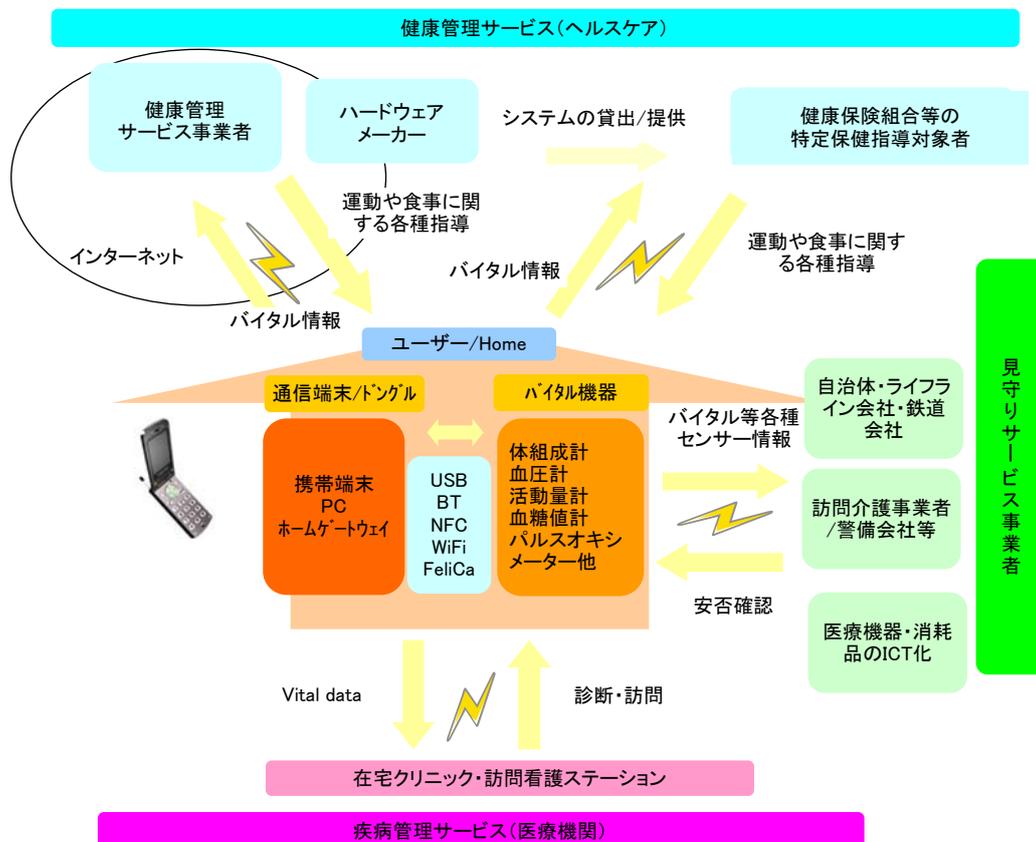
TSR - Press Release

在宅医療・健康管理ソリューション市場調査結果を発表

～2011年で約150億円弱であった日本における健康管理サービス市場は平均130%弱の年成長率で、2016年には約610億円の市場規模に達する見込み～

株式会社 テクノ・システム・リサーチは、在宅医療・健康管理ソリューション市場調査の分析結果を発表しました。

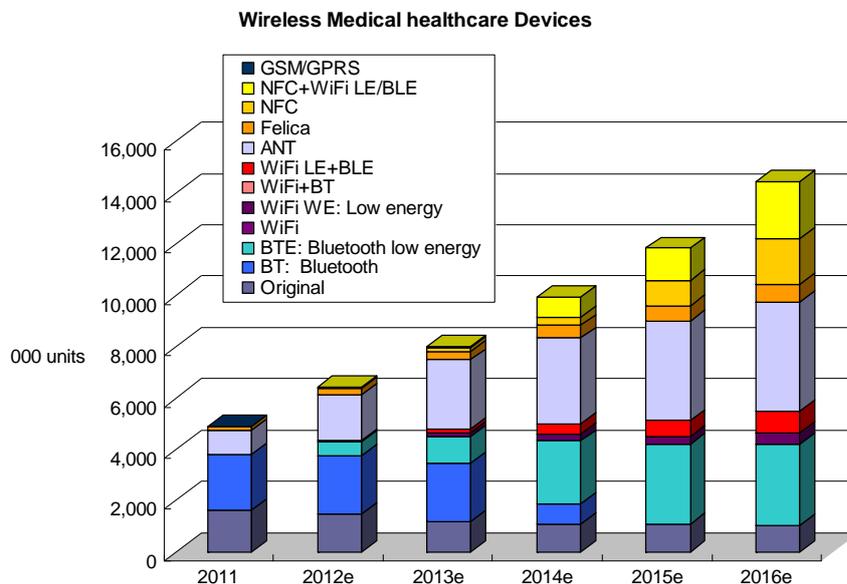
「健康管理・予防医療」「在宅治療・療養」「介護」市場はInternetの普及とハードウェアの利便性向上と共に拡大が期待されている市場である。



当市場は、健康管理にコストをかけるという意識を持つユーザーが、日本では多くはない事と、サービス内容に伴うサービス・機器類の導入ステップや使い勝手も簡単ではなかった為、市場としては黎明期に近かった。しかし、ワイヤレス医療機器・ウェルネス機器の進歩で環境が整いつつある事で今後、拡大する可能性を高めている。

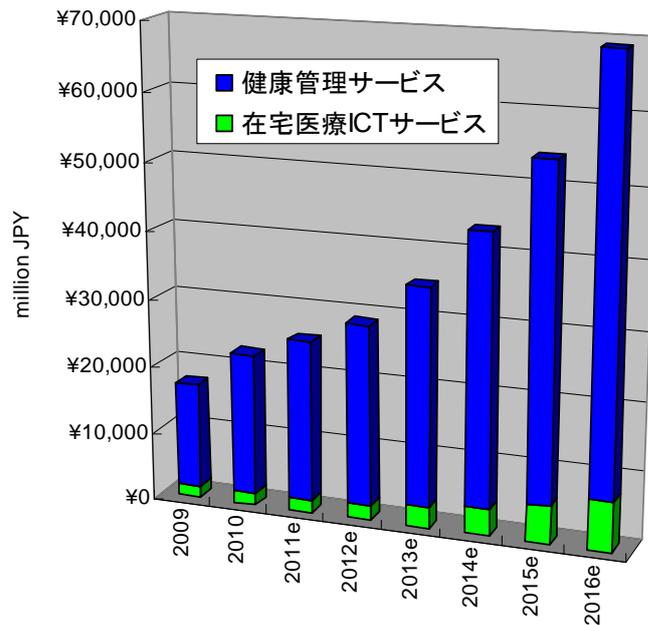
ワイヤレス対応の医療機器はグローバルで2011年525万台強、年平均120%前後で伸長していき、2016年には1,500万台レベルに到達すると予測している。医療機器全体(ワイヤレス対応・非対応含む全て)は数量ベースで年103-104%のペースで市場拡大しているのに対して、ワイヤレス医療・健康機器は大幅な伸びを示す。平均ワイヤレス対応化率は2011年で約16%であったが、2018年には25%を超える予測である。更にその中で、最も大きな数量を示すのは治療機器や臨床診断機器よりも、健康管理に利用される医療機器・ウェルネス機器類である。

また現在、医療・健康機器に採用されているワイヤレスモジュールとして主流であるのはBluetoothとANTであるが、今後ANTは増え続けるものの、Bluetoothはより低消費電力であるBluetooth low energyが増え、更にその後、NFC, WiFi Low Energyを加えて、3技術を組み合わせた複合(コンボ)タイプが急速に増えると見込まれる。携帯電話に採用されているmoduleはBluetooth→WiFi→NFCの順で搭載率が高まっており、医療機器も今後はこのトレンドに則っていくと見込まれる。



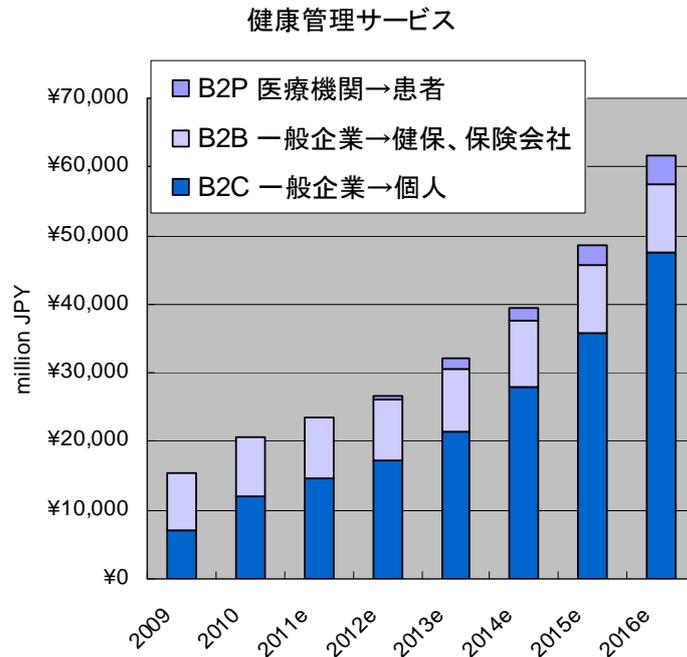
日本における健康管理サービス市場は2011年時点で約150億円弱であるが、約130%弱の伸長率で成長し、2016年には約610億円の市場規模に成長すると見込まれる。在宅医療ICTサービスは2011年約17億円弱であるが、複数の新規サービスの登場で年率約130%以上の伸長率で成長し、2016年には約73億円の市場規模に成長すると見込まれる。

在宅医療・健康管理サービス



健康管理サービスが今後大きく伸長する要因として、ICT・B2Cでノウハウを持つ一般企業が医療機関などと連携を図ることによるB2P・B2B分野のビジネスが挙げられる。これまで医療機関が患者向けに行う健康管理サービスや健保、保険会社向けのB2Bサービスは現在まで大きな成功例はない。逆にノウハウの不足で参入しても採算にのっている医療法人は殆どない。そのためICT・B2Cで培った一般企業のノウハウが存在感を増し、医療機関との連携が期待されている。

内、特にB2Cサービスが増える要因は、インターネットの普及により予防・健康管理に関する情報やサービスを求めるユーザーが病院やクリニック経由ではなく、ネットで運営されるメディアやサービスを直接見つけて利用する傾向が主流になっている為である。



在宅医療は増える終末期高齢者が自宅で家族に看取られる最期を迎えられ、かつ医療費が抑えられるとして、確実に増えている医療の形態として注目されている。患者が在宅している為、医療スタッフからは時間と場所の制約を越えられるICTの利用が有効である。その為、当調査でも、健康管理ビジネスが立ち上がるまでに、手堅いニーズがあると目している。2016年まででも、市場規模としては100億円弱と予測しているが、伸長率は非常に高く、2013年以降は130%以上の前年成長率で伸びる。内訳は服薬管理サービスや在宅患者のコールセンター・見守り市場等の新規サービスが立ち上がると見込まれる。

【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

第2グループ 高相 緑 (takaso@t-s-r.co.jp) 藤田 光貴 (mi.fujita@t-s-r.co.jp)

Tel: 03-3866-4505